

政策シート

2025年度	(管理番号)					担当課名
	分野	基本政策		政策		保健環境研究所
	05	02	01	08	01	

政策
衛生検査体制の強化と充実した感染症情報の提供

政策の内容

感染症や食品等に関する衛生検査の体制強化に向けた取組を推進することで専門性を高め、検査技術の向上を図ります。
サーベイランス情報の集約・分析力を向上させるとともに、充実した情報提供に努めます。

生活満足度に関する指標(個別指標)

指標名	質問文	基準値 2024年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
-	-						

※総合計画基本計画に係る市民意識調査(アンケート)の結果

現状・課題

- ・地方衛生研究所は、改正地域保健法(2023年4月1日施行)により新興再興感染症に備えた体制の整備を求められている。当所においては、2024年度に健康危機対処計画を策定し、平時から感染症危機に備えた体制整備を行うとともに、感染症情報等の収集・提供の充実を図り、市民の健康と安全を確保する必要がある。
- ・食中毒の発生により担当課における早急な指導や行政処分を実施するため、昼夜を問わず検体が搬入され、迅速な対応を求められている。
- ・理化学的検査の結果の信頼性を確保するため、試験法が妥当であることの確認が必要である。そのため、機器更新にともなう妥当性の再確認、食品添加物の新たな妥当性確認、検査依頼課との妥当性確認の進め方の調整等が課題である。
- ・感染症流行予測に必要なゲノム解析技術の習得、高価な解析機器の導入、感染症情報センター業務の充実を図る必要がある。

政策コストの状況(千円)	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
予算	297,465				
決算	280,463				

※「①事業活動(アクティビティ)」の予算・決算の合計

人工	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
正規職員	32.0				
会計年度任用職員	11.0				
暫定再任用職員(31時間勤務)	2.0				
暫定再任用職員(26時間勤務)	0.0				

①事業活動(アクティビティ)

事業名	事業内容	2025年度 予算 (千円)
		2025年度 決算 (千円)
保健環境研究所 管理運営事業	1 保健環境研究所の管理運営 庁舎の安全性、機能性、快適性の維持や庁舎設備の定期点検等に係る管理運営を行う。	246,682
	2 検査機器等の整備・点検 検査や測定に係る機器のリースやメンテナンスを行う。	237,688
食中毒、感染症 検査事業	1 感染症に関する検査 感染症発生動向調査事業として、感染症発生届に伴う検査(全数把握疾患)及び定点サーベイランス(定点把握疾患)の検査を実施する。また、感染症情報センターとして、ホームページを通じて市民に感染症情報を発信する。	20,285
	2 特定感染症事業に関する検査 血液中のHIV及び梅毒の検査を実施する。 3 食品等の収去検査 市内で製造・販売される食品等について、食品衛生法で定められた「食品、添加物等の規格基準」に基づく検査を実施する。 4 食中毒に係る原因菌などの検査 食品や患者検体からノロウイルス、カンピロバクターなど食中毒の原因病原体を検査する。 5 公衆衛生および環境水質に関する細菌検査 プール水、公衆浴場水、海水浴場水、事業場排水などの基準項目を検査する。 6 調査研究 食中毒・感染症に関わる事項についての調査研究を実施する。 7 健康危機管理体制の強化 健康危機対処計画を元に、検査資材の備蓄や実践型訓練を行う。	16,064
食品残留農薬等 検査事業	1 食品の検査 ①残留農薬、動物用医薬品、添加物、有害物質等の検査を実施する。 ②残留農薬等試験法の妥当性評価を実施する。	10,875
	2 家庭用品の検査 ホルムアルデヒド等の検査を実施する。 3 健康食品の検査 医薬品成分の検査を実施する。	10,551
食品等放射性物 質検査事業	食品に係る放射性物質の検査を実施する。	3,864
		3,208
食肉安全対策推 進事業	1 牛、豚等のと畜検査 ①と畜場に搬入される牛、豚等について法律に基づき一頭ごとの検査を行い、食用の適否を判定する。 ②と畜場に搬入される牛のうち、生体検査において、運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの、及び、全身症状を呈する牛について牛海綿状脳症(BSE)スクリーニング検査を行う。	14,972
	2 鶏の食鳥検査 ①食鳥処理場に搬入される鶏について法律に基づき一羽ごとの検査を行い、食用の適否を判定する。 ②食鳥処理場において高病原性鳥インフルエンザ・スクリーニング検査を行う。 3 と畜場等の衛生検証、食肉の残留有害物質検査 ①と畜場施設及び枝肉について微生物検査を行い、科学的根拠に基づいた監視指導を行う。 ②食鳥処理場施設及び食鳥肉について微生物検査を行い、科学的根拠に基づいた監視指導を行う。 ③食肉中の残留有害物質を検査し、動物用医薬品等が残留する食肉を排除する。	12,165

※予算・決算は各事業に係る経費を計上

事業名	事業内容	2025年度 予算 (千円)
		2025年度 決算 (千円)
食肉衛生検査デジタル運営経費	食肉衛生検査所の業務運営におけるシステム等のリース、保守に関する業務を行う。	787
		787

※予算・決算は各事業に係る経費を計上



②活動(アウトプット)指標

指標名	指標の定義	設定理由		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
食中毒・感染症に関わる微生物の調査研究件数(件)	1年間に実施した調査研究数(新規、継続を含む)	微生物検査の分析体制を整備し感染症や食中毒等の原因をいち早く特定することにより、健康で安心できる市民生活に寄与すると見込んでいる。	目標値	-	2	2	2	2	2
			実績値	4	1				
			達成率	-	50%				
食品残留農薬等検査に関する調査研究の件数(件)	1年間に実施した調査研究数(新規、継続を含む)	食品分析の体制を整備し、市民に有害な食品等を排除することにより、健康で安心できる市民生活に寄与すると見込んでいる。	目標値	-	2	2	2	2	2
			実績値	2	2				
			達成率	-	100%				
			目標値	-					
			実績値						
			達成率	-					

※達成率は該当年度の目標値に対する実績値から算出する。

③短期成果(アウトカム)指標

指標名	指標の定義	設定理由		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
年間ホームページ閲覧数(PV)	浜松市感染症情報センター及び浜松市感染症発生動向調査を合計した閲覧数	感染症情報センターへの閲覧数が増加することで市民の感染症情報への関心度を図ることができる。	目標値	-	109,656	115,139	120,896	126,941	133,288
			実績値	104,435	119,890				
			達成率	-	109%				
			目標値	-					
			実績値						
			達成率	-					

※達成率は該当年度の目標値に対する実績値から算出する。

④長期成果(アウトカム)指標

指標名	基本計画 指標	指標の定義		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度	目標値 2034 年度
健康寿命 (歳)	○	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間	実績値	男性 73.70 女性 75.95 (2022 年度)	2027年 度確定					男性 75.24 女性 78.15
			達成率	男性 98% 女性 97%						
			実績値							
			達成率							
			実績値							
			達成率							

※達成率は2034年度の目標値に対する実績値から算出する。

⑤目的:10年後(2034年)の理想の姿

病気の発症や重症化を予防することにより、健康で自分らしく充実した生活を送っている。

【2025年度の評価】

「①事業活動(アクティビティ)」の実施内容と事業改善(2026年度記載)

事業名	実施内容	事業改善の内容や今後の方向性
保健環境研究所 管理運営事業	○保健環境研究所の管理運営 ・更新計画に沿って庁舎3階部分の空調工事を行い、適切な施設管理を図った。 ・庁舎清掃、設備等の保守管理及び樹木剪定等の業務委託を行い、適切な施設管理を図った。 ○検査機器等の整備・点検 ・検査や測定に係る機器のリースやメンテナンスを行い、機器の適切な運用管理を図った。	・更新計画に基づき、引き続き空調工事を実施していく。 ・検査機器等については、使用頻度やコスト面等を考慮しながら効率的に管理していく。
食中毒、感染症 検査事業	○依頼に基づき感染症及び感染症発生動向調査の微生物検査を実施し、検査結果を報告した。 ○依頼に基づき特定感染症事業に関する検査を実施し、検査結果を報告した。 ○依頼に基づき食品中の細菌検査を実施し、検査結果を報告した。 ○依頼に基づき食中毒の微生物検査を実施し、検査結果を報告した。 ○依頼に基づき公衆衛生及び環境水質に関する細菌検査を実施し、検査結果を報告した。 ○調査研究を実施し、活用方法を検討した。 (事業全体合計:2,487検体) ○健康危機対処計画に基づき実践型訓練を実施し、体制強化に向けて取り組んだ(8～10月、12～1月)。	・検査器具及び試薬類の見直し、検査法の適正化などを検討する。 ・検査対応項目の充実を行うことで、年々増加する検査依頼課からの依頼に対応する。 ・平時のうちから健康危機に備えた準備を計画的に進める。
食品残留農薬等 検査事業	○依頼に基づき食品、家庭用品及び健康食品の検査を実施し、検査結果を報告した。 ○試験法の妥当性評価を実施し、試験精度の向上に取り組んだ(残留農薬:防ばい剤 動物用医薬品:鶏、豚、牛 食品添加物:保存甘味、発色剤)。 (事業全体合計:225検体)	・食品添加物等について計画的に妥当性評価を実施していく。(有害物質:PFAS) ・機器更新に伴う妥当性再評価を引き続き実施していく。
食品等放射性物 質検査事業	○依頼に基づき食品に係る放射性物質の検査を実施し、検査結果を報告した(48検体)。	検査依頼課の依頼に応じた検査をさらに正確迅速に実施するため、技術の向上に努める。
食肉安全対策推 進事業	○牛豚等のと畜検査、鶏の食鳥検査 牛、豚、こ牛、鶏について一頭、一羽毎に食用の適否判定に係る検査を行い、食肉の安全性を検査・確認した(牛2,904頭、豚63,915頭、こ牛13頭、鶏155,956羽)。 ○と畜場等の衛生検証 と畜場施設及び枝肉、食鳥処理場施設及び食鳥肉について微生物検査を行い、科学的根拠に基づいた監視指導を行った(36回)。	静岡県食肉センターの再編計画に基づき2026年12月末でと畜場が廃止となるため、食肉衛生検査所も閉鎖となる。と畜検査業務以外の残存する事務等については後継課へ引継ぐ。
食肉衛生検査デ ジタル運営経費	○食肉衛生検査所の業務運営に係るシステム等のリース、保守に関する業務を行い、検査業務の環境整備を図った。	食肉衛生検査所閉鎖(2026年12月末)に伴い、リース満了となる機器等を返還する。

「②活動(アウトプット)指標」の見直しの要否(2026年度記載)

指標見直しの要否	否
----------	---

「③短期成果(アウトカム)指標」の見直しの要否(2026年度記載)

指標見直しの要否	否

2025年度の政策の評価と2026年度以降の取組の方向性(2026年度記載)

管理運営事業については更新計画に基づいた庁舎空調工事や業務委託を計画的に実施し、施設の機能維持と安全性確保を図った。引き続き、更新計画に沿った空調工事の実施や検査機器の効率的な整備・点検により、適切な執務環境と検査体制を確保していく。

食中毒、感染症検査事業については急性呼吸器感染症(ARI)が5類感染症の定点把握対象疾患に定められたことから、新たに検査体制を構築し適切な検査を行うことができた。また、食中毒の微生物検査件数が昨年度より増加したが、迅速かつ正確に検査を実施し、目標を達成することができた。引き続き、検査器具及び試薬類の見直し、検査法の更新を進めながら、検査体制の充実を図っていく。

食品残留農薬等検査事業については検査依頼に基づき検査を実施し、結果を報告した。また、調査研究により試験法の妥当性評価を実施するなど検査体制を整備した。引き続き、計画的に妥当性評価及び、妥当性再評価を実施し、検査依頼課の依頼に応じた検査を実施できる体制を整えていく。

食品等放射性物質検査事業については検査依頼に基づき検査を実施し、結果を報告した。引き続き、依頼検査をさらに正確迅速に実施するため、技術の向上に努める。

食肉安全対策推進事業については牛、豚、鶏について一頭一羽毎に検査を行った。また、と畜場施設及び枝肉、食鳥処理場施設及び食鳥肉について微生物検査を行い、科学的根拠に基づいた監視指導を行った。静岡県食肉センターの再編計画に基づき2026年12月末でと畜場が廃止となるため、食肉衛生検査所も閉鎖となる。検査業務以外の残存する事務については後継課へ引継ぐ。